

「しがwebアンケート調査」第2弾 第3回目（県内）の結果について

1. 調査の目的

県政における喫緊の課題や重要事項について、インターネットを活用し適時迅速に他府県民の意識や意向を調査し、速やかに県の方針や県政運営に反映させるための基礎資料とする。

2. 調査の概要

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| (1) 調査対象 | 滋賀県内在住の満 18 歳以上の個人（子育て中の方） |
| (2) 標本数 | 500 人 |
| (3) 調査方法 | インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するWEB調査 |
| (4) 調査期間 | 令和2年12月18日（金）～ 12月21日（月） |
| (5) 調査会社 | 株式会社クロス・マーケティング |

3. 調査項目

「新型コロナウイルス感染症の影響による子育て世代の意識」

担当：女性活躍推進課、子ども・青少年局

4. 主な調査結果

■「新型コロナウイルス感染症の影響による子育て世代の意識」について

Q1, 2 生活の満足度について、新型コロナウイルス感染症拡大前と現在とでお尋ねします。各項目ごとに「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点として0～10の点数を記載して下さい。

新型コロナウイルス感染症拡大前と現在とを比べると、生活全体の満足度は $\Delta 1.11$ (7.04→5.93)、仕事の満足度は $\Delta 0.56$ (5.90→5.34)、子育てのしやすさの満足度 $\Delta 0.91$ (6.55→5.64)、社会とのつながりの満足度 $\Delta 1.15$ (6.15→5.00)、生活の楽しさ・おもしろさの満足度は $\Delta 1.39$ (6.59→5.20) と、すべての項目で満足度が低下している。

また、男女別にみると、生活全体の満足度で女性が男性よりも低下幅が0.58ポイント大きくなっているなど、すべての項目で女性の低下幅が男性よりも大きく、女性の方がコロナ下において満足度がより低下している。

Q3 新型コロナ感染症拡大前を基準として、自分および配偶者の①家事、②子育て、③仕事（通勤時間を含む。）に関する時間は、現在、どのように変化しましたか。

自身の家事時間については、男性では27.6%、女性では49.6%が増えたと回答（「増えた」、「少し増えた」と回答した合計。以下同じ。）、自身の子育ての時間については、男性では26.4%、女性では45.2%が増えたと回答しており、女性の方が自身の家事や子育ての時間が増えたと考えている人が多い。

自身の仕事（通勤時間を含む）時間については、全体で14.4%（男性13.2%、女性15.6%）が増えたと回答、一方で減ったと回答している人も18.2%（男性20.4%、女性16.0%）あり、業種等により異なる影響があると思われる。

Q4 あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響下において、テレワークを経験しましたか。

テレワークを実施している人が15.5%、実施していたが現在は行っていない人が17.3%と、全体では32.8%の人がテレワークを経験しているが、その半数がテレワークを行っていなかった。

Q5 あなたは、コロナ禍において不満、悩み、苦勞、ストレスなどがありましたか。あった方は、どのようなことがストレスとなったか教えてください。（3つまで）

全くない、あまりないと回答した31.8%（男性44.8%、女性18.8%）を除くと、

- 1位：自身や家族の健康に関する不安 35.6%（男性29.2%、女性42.0%）
 - 2位：周囲の人と日常の悩みなどを話す機会がなくなった・少なくなったこと 26.2%
（男性17.2%、女性35.2%）
 - 3位：家事や子育て、介護における負担の偏り 17.4%（男性8.0%、女性26.8%）
となっており、男性と比べ女性が様々な面で不満、悩み、苦労やストレスを感じている割合が高い傾向にある。特に家事や子育て、介護における負担の偏りによるストレスについては、男女差が大きい。
- なお、「配偶者からの暴言や暴力など」と回答した人は4.6%（男性4.0%、女性5.2%）いた。

Q6 パートナーとともによりよく暮らし、子育てをしていけるために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで）

- 1位：子育て世帯に対する社会全体の理解 47.8%（男性46.0%、女性49.6%）
 - 2位：男性も女性も育児や介護で気兼ねなく休暇を取れる柔軟な働き方 46.0%
（男性49.6%、女性42.4%）
 - 3位：子育てと両立しやすい働き方の情報（例えば、在宅ワークなど） 38.6%
（男性31.6%、女性45.6%）
- となっており、社会の理解や、仕事と子育てを両立できる働き方が必要と考える人が多い。

Q7 新型コロナウイルス感染症により次子の出産予定に影響がありましたか。

- ・影響はない 85.8%
- ・出産予定を早めた 1.0%
- ・出産予定を遅らせた 0.8%
- ・出産予定を見送ることとした 0.8%
- ・答えたくない。 11.6%

全体で85.8%の方が「影響はない」と回答した。子どもの人数や働き方（共働きなど）による回答傾向には特に大きな違いはなかった。

Q8 新型コロナウイルス感染症による学校休業中、子どもだけになるなど、子どもが過ごす場所について困ることがありましたか。

- ・困ることはなかった 51.2%
- ・時々困ることがあった 37.2%
- ・困ることが多かった 11.6%

「困ることはなかった」51.2%が最も多かったが、「時々困ることがあった」と「困ることが多かった」を合わせると48.8%と、約半数の方が子どもの過ごす場所に困っていた。子どもの人数、働き方による傾向は特に見られなかった。

Q9 Q8で「時々困ることがあった。」または「困ることが多かった。」と回答された主な理由を教えてください。

- 1位 身近に子どもが過ごせる場所がない・知らないため。 39.8%
- 2位 家族や親戚、知人など身近で預かってくれる人がいなかったため。 21.7%
- 3位 いつも利用している保育所や放課後児童クラブ等が開いていなかったため。 19.3%
- 4位 子ども食堂やフリースペース等が開いていなかったため。 11.5%

学校休業中の子どもが過ごす場所での困りごとについて、最も多かったのは「身近に子どもが過ごせる場所がない・知らないため。」39.8%であったが、「共働き（夫婦ともにフルタイム）」では「いつも利用している保育所や放課後児童クラブ等が開いていなかったため。」31.8%が最も多かった。